



〈表紙写真〉

【備瀬のフクギ並木】

(沖縄本島北部)

防風林として発達したフクギが、備瀬の集落一体を囲んでおり、沖縄本島最大規模の並木となっています。天気の良い日には、葉の間から射す木漏れ日がなんとも心地よく、美しくて静かな癒しの空間が広がっており、徒歩でゆったりと散策できるほか、牛車に乗ることもできます。緑に囲まれた、自然を直接肌で感じられる癒しの場所へ、ぜひドライブしながら立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

# 群星 Muribushi

【むりぶし】

C O N T E N T S

## 01 「赴任後の一年余を振り返って」

沖縄総合事務局長 竹澤 正明

### 特集

## 02 総務部 「アジア青年の家2010」活動報告

## 04 経済産業部 家電リサイクル法に基づく廃家電のリサイクルと不法投棄について

### 仕事の窓

## 06 仕事の窓① 財務部 管内経済情勢報告

## 08 仕事の窓② 農林水産部 平成21年度 沖縄農林水産業の情勢報告

## 10 仕事の窓③ 開発建設部 地球温暖化に伴う気候変化を踏まえた今後のダムのあり方について「提言」

## 12 仕事の窓④ 開発建設部 磁気探査機器の無償貸出し

## 14 仕事の窓⑤ 運輸部 自賠責制度PR月間について

### 局の動き

## 15 総務部 「平成22年度第2回沖縄振興講演会」を開催

## 15 総務部 「下請法」の遵守により公正な下請取引を！

## 16 農林水産部 「消費者の部屋」特別展示(もずくの美味しさを広げよう!)を開催 平成21年度「食料・農業・農村白書」「森林・林業白書」「水産白書」に関する沖縄ブロック説明会を開催

## 17 開発建設部 平成22年度防災訓練(風水害)を実施

## 17 運輸部 ～平成22年『海の月間』について～

## 18 なかゆくい ダム管理業務について

## 20 内閣府だより 平成22年度「子ども霞が関見学デー」/人事異動のお知らせ

## 21 お知らせ

## 沖縄の通貨あれこれ!

#2



## 沖縄の通貨あれこれ ～B円からドルへ～

前回はB型軍票(B円)を中心に紹介をしましたが、今回は、「B円」から「ドル」への通貨交換にスポットをあてたいと思います。

米国政府は、深刻化した軍用地問題(島ぐるみ闘争)を住民の生活や福祉水準を高めることにより解決しようとしたが、当時の沖縄は資本の蓄積が低く、経済援助も縮小していたため、貿易・為替・資本取引などを自由化し、外国資本をはじめ、諸々の生産要素を海外から導入しやすくしました。B円からドルへの通貨交換は、外資等の導入を通貨面から強化するために実施された政策の1つです。

B円とドルとの交換は、1958年9月16日に開始されました。「ドル時代」の幕開けです。首里高校が沖縄代表として全国高校野球大会に初出場した翌月のことでした。

交換所には金融機関本支店が指定され、金融機関のない町村では、役場がこれにあたることになりました。交換は当初9月20日までの5日間で行う予定でしたが、最終的には11月29日まで延長され、総額約43億1,600万B円が、約3,600万ドルと交換されました。交換レートは1ドル=120B円でした。ドル交換に際しては、180人の武装警官だけではなく、米軍もMPと400人の将校を毎日動員し、各交換所の警戒にあたりました。さらに米軍は、宮古と八重山にC47輸送機を、近隣離島にはヘリコプター4機と軍用舟艇を派遣してドル紙幣の輸送と護衛を行いました。こうして回収された大量のB円は、ドラム缶に入れられ、コンクリート詰めになされたうえで、東支那海の海底深く沈められたと言われています。

「ドル時代」に突入した沖縄経済の発展は目覚ましく、基地関連収入や日米援助等を背景としながら、1人当たりの所得は58年度の173ドルから71年度には、その5.2倍に当たる907ドルと大幅に増加しました。庶民の生活にも活気が出始め、生活にも余裕が生まれてきましたが、基地依存型の経済が深く浸透した時代でもありました。



★本誌タイトルについて★

群星(むりぶし)とは、沖縄の方言で「昂星(すばる)」のことで「ぶりぶし」、「むるぶし」とも呼ばれています。